

研究だより



せらにし小学校研究部
令和3年 4月 1日
No. 1

3年間の「学力フォローアップ校事業」を終え、これまで取り組んできたことを今年度も確実にやっていきたいと思ひます。「研究だより」を通して、本校の研究の共通認識を図りたいと思ひます。よろしくお願ひします。



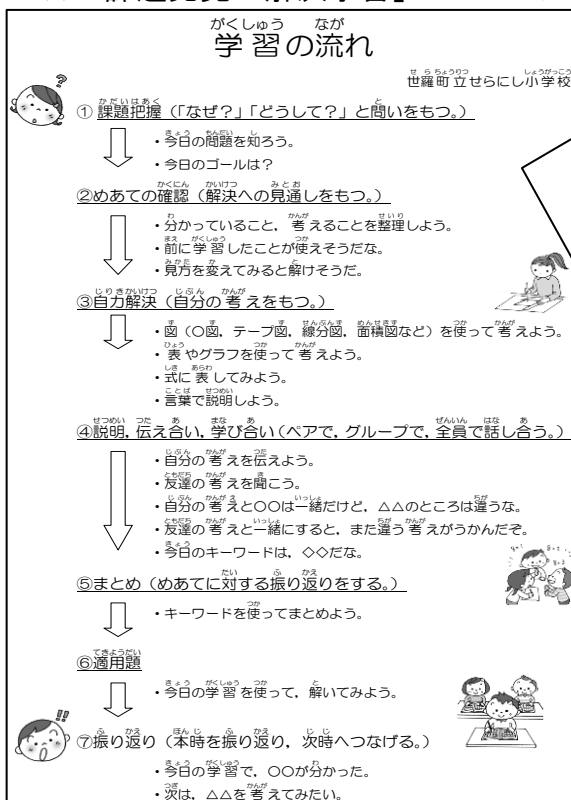
まず、昨年度までの取組について確認します。

「せらにし小学校の授業改善ポイント」

- ①児童が授業のゴールイメージをもっています。
- ②児童が、自分の考えをもち表現しようとしまひます。
- ③児童が、授業で学んだことを表現しまひます。

以前、教職員全員で考えたポイントです。これを意識した授業づくりをやっていきましょう。

☆「課題発見・解決学習」について



①課題設定場面に重点をおく。

- ・生活や他教科との結びつき。
- ・既有知識とのずれ 等

児童に「やってみよう」「なぜ?」「知りたい」と思わせるような課題を設定しまひましょう。学力向上には、まず、意欲向上が欠かせません。

②解決への見通しをもたせる。

- ・「今までと同じ方法で解けるかな?」
- ・「前に学習した〇〇が使えそう。」
- ・「図にかいてみよう。」

既習事項を想起し、それと関連付けながら解決するための方法を考えさせまひましょう。

③対話場面を必ず設定する。

根拠をもって自分の考えを伝えられるようにしていきましょう。

「主体的な学び」を育むためには、子どもから「問い」を引きだすことが大事だと思ひます。子どもから出された「問い」が本時の「めあて」になるようにしていきましょう。子どもたちから「問い」が生まれ、それが「主体的な学び」となれば、「対話的な学び」へつながるのではないのでしょうか。

・“考えるためのツール”の活用

- | | |
|---------|---------------------------------|
| ①ブロック | 具体物で視覚的に |
| ②絵 | 絵に言葉や数を付け加える |
| ③○図 | |
| ④テープ図 | ①～③をテープで表現 |
| ⑤線分図 | 数量の関係を表す |
| ⑥数直線図 | |
| ⑦関係図 | 数量間の関係を矢印や言葉で表す |
| ⑧4マス関係表 | 縦と横の関係が同じになるように書き、比例関係で成り立っている表 |

使う場面

- ①問題をイメージする場面
- ②数量の関係をつかむための場面
- ③説明するための場面

1・3・5年生児童に「つばきっ子のツール」を配布します。2・4・6年は、昨年のもを引き続き活用します。持って帰らせたり、なくしたりした場合は、教務・研修部へ声をかけてください。これを活用しながら、自分なりに考え、説明できる児童を育てていきましょう。

・算数科における主体的な学び（学習指導要領 算数編P322）

「算数科では、児童自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見出したりするなどの『主体的な学び』を実現することが求められる。」

・見通しが、主体性を持続する上で大事。→共有する部分を吟味する。

- | | | |
|--------|----------|----------------|
| ・「見通し」 | 思考方法の見通し | 例) たてに見る, 横に見る |
| | 表現方法の見通し | 例) 図・表を使う |
| | 結果の見通し | 例) 40より大きくなりそう |

・「練り上げ」の方向性

異なる場面での活用について考察する。→数字が変わった時に使えるか？

現実の生活への活用について考察する。→日常で使えるか？

状況に適した見方・考え方を選択する。

・今日の学習について「何が分かったのか」「授業を通して何が成長したのか」「どんな力が付いたのか」「身近なことで言うと今日の学習は何か」「今までの学習と～が同じ」「新たな疑問」など、振り返りを充実させていくこと。

→『せらにし小 学びの手引き』を一人一枚配布します。「ふりかえりのポイント」を参考にしてください。児童に、どのような振り返りができれば良いのか確認しておきましょう。



次に、今年度の研究主題を確認しましょう。

研修主題『	』	
～「	」を通して、	を育成する。～

本校が育成を目指す「主体的な学び」・・・児童が「なぜ?」「どうして?」と問いをもち、それらを解決するための見通しをもって課題解決に向けて粘り強く取組み、学習の過程を振り返ることで次への意欲がわく学び。

☆「主体的な学び」

表現力を例にしてみると・・・

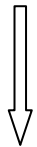
他者の説明を自分なりに理解し、「図に置き換えると」「日常の場面に置き換えると」と説明できる。

他者に説明する時に分かりやすくしようとする。

☆本校は「せらにし授業スタイル」を作成しています。授業の基本的な流れです。確認しておきましょう。

◎日頃の授業づくりで大切にしたいこと

・授業のねらい



どのように発問するか。
児童に何を書かせるか。

1時間の授業のねらいとゴールを設定し、ゴールに向かうために何を発問し、何を考えさせるのかを、わたしたち教師自身をもっておくことは、授業を行う上で大事なことです。

本時のゴール

◎本校の課題について

・本校の課題は、「複数ある資料などからの情報の整理や内容把握、また、それを関連づけて表現すること」です。



資料の読み取り等をどのように指導していくか。



算数科だけではなく、他の教科で資料を活用する際に、児童に自分の考えを言わせたり、書かせたりする時間を確保していきましょう。

例) 社会科では、複数のグラフ等がある。日頃の授業から、複数のグラフから読み取れることは何かを児童自身に考えさせていく。

☆今年度も「対話」を大事に授業づくりを進めていきます。

◎「対話」の在り方

- ・教材との対話，自己との対話，他者との対話。
- ・授業者が意図をもって対話場面を仕組むこと，それを児童にも示すこと。
 - 例) 自分の考えを整理するためのペアトーク。
 - 互いの考えを交流することで深めるためのグループトーク。
- ・まず，自分の考えを確実にもたせること。それは，決して“正解”をもたせることではなく，「自分はこう考えた。」「ここまで考えたけれど，この部分が分からない。」などの“考え”をもたせることであるべき。
- ・「教材との対話」「自己との対話」をするために，昨年度までに作成した個への手立てを活用していく。
 - 個の実態・困り感に応じて，手立てを準備しておく。
 - ※実態把握，教材分析が重要。
 - めあてにそった手立てであるべき。
 - ※答えを求める手立てではなく，考えるための手立て。
 - ねらいが説明することであれば，説明させるための手立て。
- ・自力解決に時間をかける必要はない。集団での練り合いにしっかり時間をとっていくことが大事。その後，再度，自己へ戻し考えさせていく。

○算数科ノートの使い方について（別紙資料。算数の授業開きで確認する。）

- ★分からないことがあったらノートを振り返ってみるような子どもを育てたいと思います。教室に，「ノート名人」の掲示をしてください。



○つばきタイム，さよならタイムについて

- ・つばきタイム 月・火・木・金 13:45～14:00
- ・さよならタイム 帰りの会終了後
 - ※今年度も，つばきタイム用に「 α ドリル国語」「算数カトレーニング」，さよならタイム用に「スキルタイム計算」を購入します。
 - 詳しいことについては，別途，提案します。

○国語辞書について

- 一人1冊辞書を机の横にかけておき，辞書を引くことを習慣化させる。
- ・辞書を入れた巾着袋を机の横にかけておく。

- ※辞書を引くことを習慣化させることのメリット
 - 辞書の引き方が分かる。
 - 分からないことを自分で調べようとする。
 - 語彙数が増える。